

造血器疾患の分子病態解明と新規分子標的治療開発を目指した基盤研究

1. 研究の対象

2013年4月1日～2023年9月30日に当院で血液の病氣と診断された方

2. 研究目的・方法

【研究の目的】

血液の病氣の治療成績の改善のためには、どのようにして病氣が生じ、どのようにして病氣が進行するのか、といった原因を明らかにすることが必要です。原因解明の方法の一つが遺伝子解析です。近年の遺伝子解析技術の進歩により、ヒトの遺伝子のほぼすべての配列情報を解析することができるようになり、多くの病氣の原因遺伝子がわかってきています。その一方で、血液疾患などに起きている遺伝子異常は、同じ診断であっても、患者さんによって異なることも明らかとなっています。そのため、病氣の特徴を知るためには、多くの患者さんの細胞を解析させていただくことが必要です。血液疾患を対象に、病氣の原因解明と有効で安全性の高い新しい治療法の開発を目的として、患者さんからいただいた検体をもとに研究を実施します。

【研究の方法】

日常診療から得た診療情報（病型、性別、年齢、診断日、再発の有無・再発日、最終観察日、造血幹細胞移植施行の有無・同施行日、治療内容、染色体分析結果、造血器疾患診断時の細胞表面抗原解析の結果、血液検査結果、骨髄所見、病理所見、臨床病期など）を診療録より調べます。

骨髄検査や手術で摘出した組織の残余検体をもちいて血液や骨髄などの細胞からDNAやRNA、タンパクという物質を取り出し、血液の病氣と関係する可能性がある遺伝子について、遺伝子の配列情報などを解析します。明らかとなった変化・異常については、同じ異常を持っている患者さんがどのくらいいるのか、症状との関係はどうかなどについて調べます。遺伝子の異常が病氣の発症に影響を及ぼしている可能性が考えられた場合は、遺伝子異常の機能を調べるため、培養細胞ならびにマウスの細胞を用いた遺伝子解析の実験を行います。患者さんの細胞がどのようなお薬に感受性を示すのかを調べるために、患者さんの細胞を特定の試薬や他の細胞と一緒に培養し、目的の実験に応じた方法で解析します。

【研究期間】

倫理委員会承認日～2028年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病型、性別、年齢、診断日、再発の有無・再発日、最終観察日、造血幹細胞移植施行の有無・同施行日、治療内容、染色体分析結果、造血器疾患診断時の細胞表面抗原解析の結果、血液検査結果、骨髄所見、病理所見、臨床病期、等

試料：骨髄検査や手術で摘出した組織の残余検体

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

高知大学医学部附属病院

血液内科 教授 小島 研介

高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

電話：088-866-5811（代表）

-----以上